



創業当時の版画パネルの前で、親睦会の記録をまとめた冊子をする柿沢さん

人の成長なくして、会社の成長なし

今年で会員歴54年目となる「河上金物株式会社親睦会」。県本部のない富山県で、長年にわたり「小さな親切」運動に取り組み、6月29日開催の創立60周年記念祝賀会（P4-7参照）では、「Small Kindness Awards」を受賞しました。

会社自体の歴史も古く、創業はなんと明治18（1885）年。現在は各種鋼材、建築用金物を扱っており、北陸新幹線の防風フェンスなどにも同社の鉄鋼材が使われています。

親睦会は60年以上続く組織で、毎年ボウリングや野球大会などを開催し、従業員同士の交流を深めています。親睦会会長の柿沢俊宏さんは、「小さな金物店からスタートしたので、もともと家族的な雰囲気

の会社ですが、親睦会のおかげで、部署や世代の違う従業員ともコミュニケーションがとりやすくなっている」と話します。

また、県内の産業の発展とともに、事業が拡大してきたこともあり、「地域のために」の気持ちが強く、使用済み切手の収集や地域清掃、様々な福祉団体への募金など、社会貢献活動にも意欲的に取り組んでいます。

事業所に掲げられていたのは、創業当時の金物店を宣伝するためにつくられた版画。「^{よろず}七金物所」の文字からは、顧客のあらゆるニーズに応えようと歩んできた同社の歴史が感じられます。5代目となる河上森・代表取締役社長は、これを「よろずの心」として受け継ぎ、「人の成長なくして、会社の成長なし」と、従業員の人間力の育成には特に力を入れています。

親睦会や「小さな親切」運動が代々継承されているのも、人づくりやコミュニケーションの大切さを従業員の皆さんが実感されているからなのでしょう。親睦会の活動記録は、毎年冊子にまとめられ、従業員一人ひとりに配られていますが、どのページにも楽しそうな笑顔が溢れていました。